別紙様式

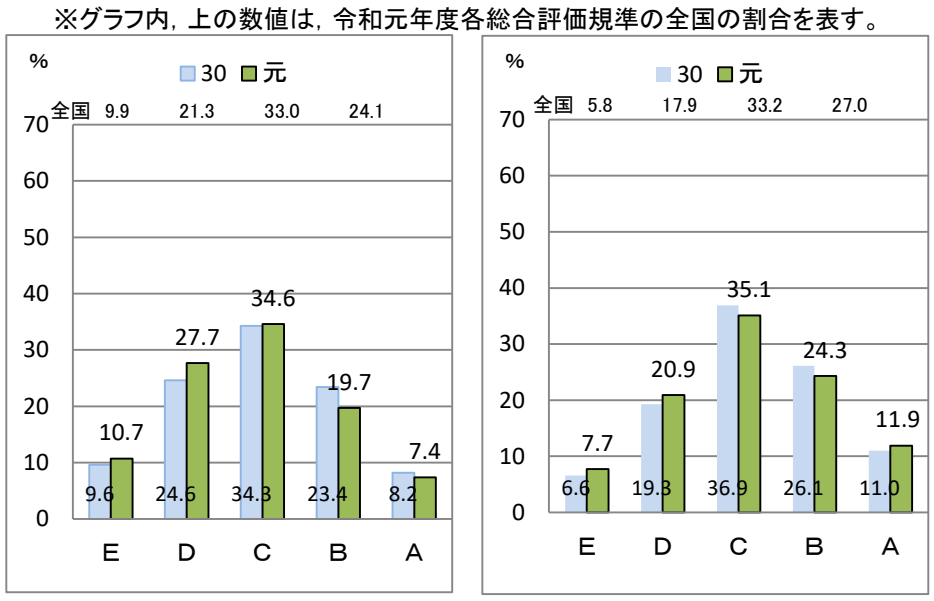
令和元年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査結果について
（体力総合評価，運動実施時間における課題と対策）

鹿屋市　　教育委員会

【小学校　体力総合評価】

〔男子〕　〔女子〕

※グラフ内，上の数値は，令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



※　グラフの横軸は，総合評価規準（得点）を示す。

小学校　A：65点以上　B：58点～64点　C：50点～57点　D：42点～49点　E：41点以下

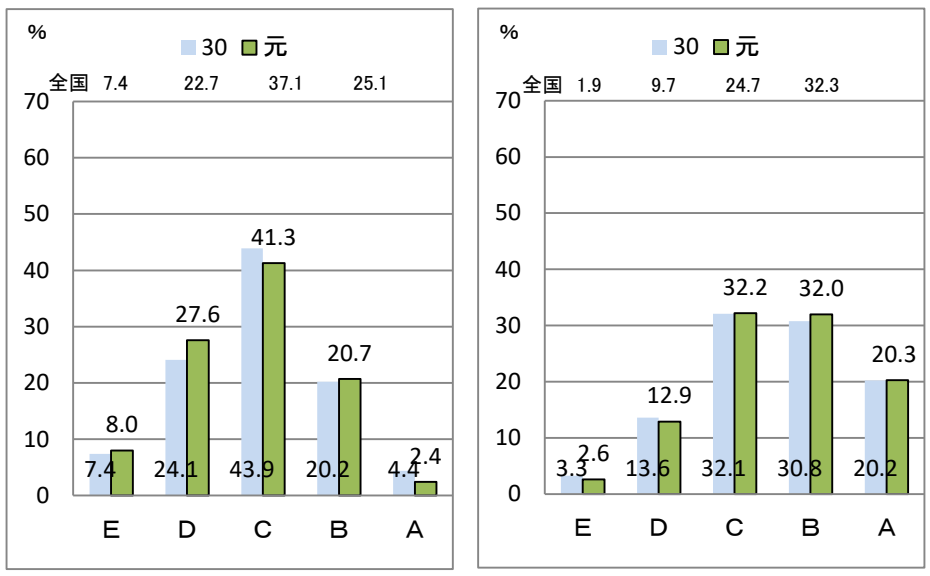
〈現状及び課題〉

・　A＋Bは男子が4.5ポイント、女子が0.9ポイント減少し、D＋Eは男子が4.2ポイント、女子が2.7ポイント増加している。また、男女ともに全国と比較してA＋Bが少なく、D＋Eが多い。

・　昨年度より女子のAが増加しているが、男女ともに全国よりAが少なく、Eが多い傾向が見られるので、運動が得意なA＋Bを更に伸ばし、運動が苦手なD＋Eを減らす教科体育の授業改善の取組や教科外体育の充実が必要である。

【中学校　体力総合評価】

〔男子〕　〔女子〕



※　グラフの縦軸は，総合評価規準の児童生徒の割合（%）を示す。

中学校　A：57点以上　B：47点～56点　C：37点～46点　D：27点～36点　E：26点以下

〈現状及び課題〉

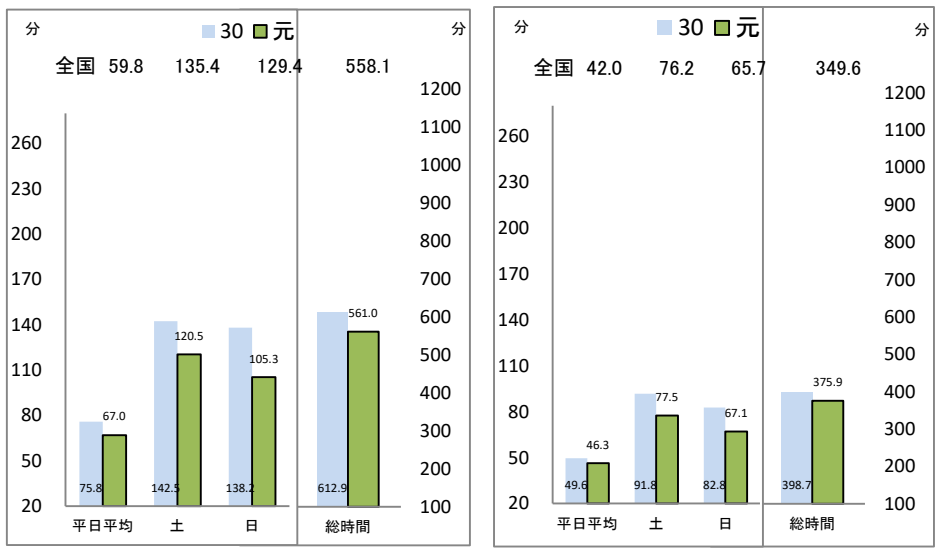
・　A＋Bは男子が1.5ポイント減少、女子は1.3ポイント増加し、D＋Eは男子が4.1ポイント増加、女子は1.4ポイント減少している。男女ともに全国と比較してA＋Bが少なく、D＋Eが多い。

・　昨年度より女子のA＋Bが増加しているが、全国のポイントより低い。男子はAが減少しているので、A＋Bを更に伸ばし、D＋Eを減らすよう、運動への興味関心を高め、教科保健体育の授業改善の取組や教科外体育の充実を図る取組が必要である。

【小学校　運動実施時間】

〔男子〕（平日の平均及び土日）（1週間）　〔女子〕（平日の平均及び土日）（1週間）

※グラフ内，上の数値は，令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※　グラフの横軸の平日平均は，月曜～金曜の運動実施時間（分）の平均を示す。

〈現状及び課題〉

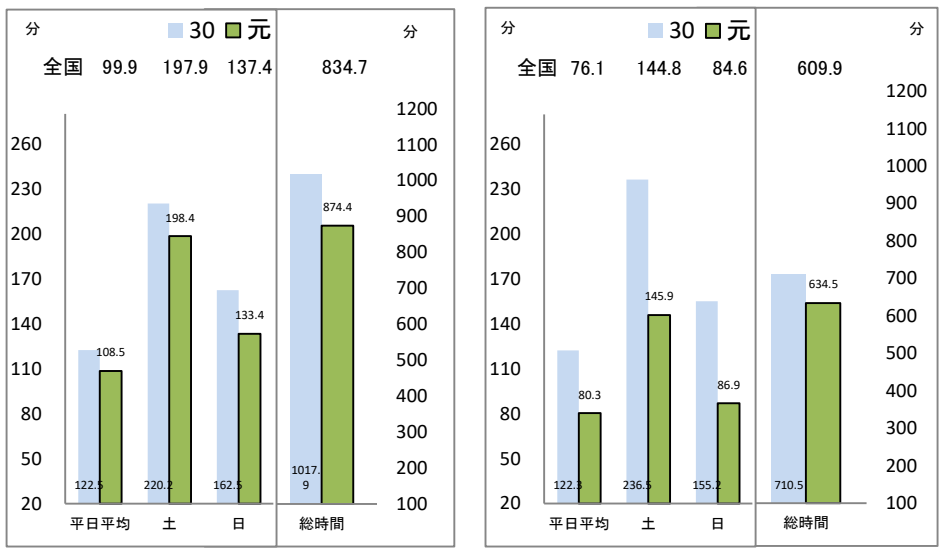
・　1週間の総運動時間は、全国と比較して男子はほとんど差がなく、女子はわずかに長いが、昨年度より減少している。

・　平日については、男女ともに全国よりわずかに長いが、土日は男子が短く、女子はほとんど差がない。昨年度と比較すると平日、土日の男女ともに減少している。

・　土日の運動を促進するためにも家庭への啓発等が必要がある。

【中学校　運動実施時間】

〔男子〕（平日の平均及び土日）（1週間）　〔女子〕（平日の平均及び土日）（1週間）



※　グラフの縦軸は，それぞれの運動実施時間（分）を示す。

〈現状及び課題〉

・　1週間の総運動時間は、全国と比較して男女ともに長いが、昨年度より減少している。

・　平日については、男女ともに全国よりわずかに長いが、土日はあまり差がない。昨年度と比較すると平日、土日の男女ともに減少している。

　このことは、鹿屋市部活動ガイドラインの実践によるものであると考えられる。

・　運動に興味を持ち、自発的に運動を行う手立てが必要である。

【改善策】

・　体育、保健体育の授業や体力向上に係る研修会への積極的な参加をとおして、教員の指導力向上を図り、運動やスポーツが楽しいと感じ、運動好きな児童生徒の増加に努める。

・　授業において目標の提示や振り返りの活動を徹底し、「できる」（達成感）を味わうことのできる授業づくりや、仲間と一緒に活動をしたり、話し合い活動をしたりするなど友達と関わる活動を取り入れた授業改善を行い、教科体育、保健体育の充実を図る。

・　全学校で「体力アップ！チャレンジかごしま」に取り組み、各学校の体力の課題に重点化した「一校一運動」を推進する。

・　各学校で作成している「たくましいかごしまっ子育成推進プラン」を基に取組を行い、全校体制で体力の向上に努める。

・　家庭、地域との連携を図り、睡眠、食事、運動習慣など健康に係る意識を高め、自発的に運動を行う児童生徒の育成に努める。

・　徒歩での登下校や昼休みに外で遊ぶことなど運動の生活化や日常化を推奨し、児童生徒の運動量を確保し、体力の向上を図る。

・　市体育担当者会において、実践発表や情報交換を行い、情報の共有を図るとともに、教員の指導力向上と啓発を図る。

・　鹿屋体育大学と連携し、スポーツボランティアの活動をとおして児童生徒の体力の向上を図る。